

今日から始める
自然観察

あのヒヨドリ、 遠くから来たかも?!



せんざきまさゆき
先崎理之
北海道大学大学院
環境科学院

よく見かけるヒヨドリが、春と秋に移動している個体がいることをご存じですか？実は渡り（わた）をしている意外な鳥や、いろいろな鳥たちの渡りをする時間帯について紹介します。



▲ヒヨドリの渡りは密集した群れで、主に午前中に行われる。海に面した岬などでは、10～11月ごろまたは5月ごろになると、ヒヨドリの群れが鳴きながら地上付近を移動し、意を決したように海上に飛び出る光景が見られる。



▲食物が乏しくなる冬には、ナナカマドなどの実のなる木が、ヒヨドリの格好の食事場となる。

ヒヨドリってどんな鳥？

全長約28cmの中型鳥類で、体型は細身で、尾羽がやや長いのが特徴。全身が灰褐色で、頬の赤褐色が目立つ。

サハリン、日本、朝鮮半島南部などの低地から山地の森林や緑の多い住宅街に分布。繁殖期はペアで子育てを行い、それ以外の時期は単独または群れで過ごす。無脊椎動物から木の果実、ニンジンや白菜などの農地の野菜まで何でも食べる。



鳥類の中には、遠く離れた異なる場所で夏と冬を過ごす種類がいます。こうした鳥類は渡り鳥と呼ばれ、豊富な食物や快適な気候を求めて、毎年数百～数千キロを移動します。

ヒヨドリは緑の多い住宅街や都市公園で四季を通して見られる鳥類ですが、必ずしも一年中同じ場所で生活している個体ばかりではなく、渡りをする個体も多いと思われれます。従って、同じ場所でも一年中見られるヒヨドリでも、実は夏と冬とで全然違う個体になっている、なんてことがあるかもしれません。

ヒヨドリの渡りは、津軽海峡や鳴門海峡、関門海峡沿いの渡り観察地を始めとして全国の海沿いなどで普通に見られます。渡りを行うヒヨドリは、朝から昼にかけて数十から数百羽の密集した群れとなり、「ヒヨヒヨ」とにぎやかに鳴きながら比較的低空を移動していきます。どのくらいの割合のヒヨドリが移動しているのかなどまだ不明なことは多いのですが、脚輪の回収記録によると夏と冬とで

実はこんな鳥も渡りをしている

※ヒガラもハシブトガラスも、渡りをする個体もいれば、一年中移動しない個体もいる。筆者のフィールドの北日本での観察例で、それ以外の地域の渡りについては詳細不明。



ヒガラ

本種を含むカラ類の仲間は、ヒヨドリと同じように日中に群れて渡りを行う。北日本のヒガラの数が多い場所では、数十から数百のヒガラの群れが次々に海岸沿いを移動したり、海に飛び出したりする光景が見られる。



ハシブトガラス

カラスの仲間は、日中に単独または群れて渡りを行う。日本では一年中同じ場所に生息していると思われがちなハシブトガラスも、北日本を中心に、渡り鳥の多い岬では1～数十羽程度の群れで海上に飛び出していく。

渡りの時間

ヒヨドリは主に午前中に渡りを行うが、他の鳥たちはいつ旅しているのだろうか？

主に夜渡る鳥



ウグイス



アカハラ

小型の鳥類のうち、群れをつくらぬ種類が多くが夜に渡りを行う。ウグイスの渡りは夜間に単独でひっそりと行われる。丸くて幅の広い翼を精いっぱい羽ばたきながらゆっくりと前に進む。アカハラなどのツグミの仲間は群れて夜に渡りを行う。ツグミ類は「ツイー」、コサメビタキは「スイ」、キビタキは「ピィ」という地味な声を時折発しながら渡る。多数の鳥が渡っている夜には、夜空からこれらの鳴き声が頻りに聞こえてくる。

【主に夜に渡る鳥のリスト】

フクロウ類、カッコウ類、キジバト、アオバト、ヨタカ、カワセミ、クイナ類、ヒタキ類、ツグミ類、ウグイス、ムシクイ類など

観察の楽しみ方

鳴きながら渡る鳥もいるので、静かな場所で耳をすませてみよう！

主に昼渡る鳥



ノスリ



ハリオアマツバメ

羽ばたかなくても滑空のできる鳥類が多くが昼に渡る。これは昼に発生する上昇気流を捉え、効率的に前進できるためと考えられる。猛禽類の多くは昼に渡る種類に該当し、各地の渡り鳥がよく見られる有名な場所では、多くの観察者が猛禽類の渡りを観察しに訪れる。

観察の楽しみ方

長く先が尖る翼は長距離を飛ぶのに優れる。それぞれの鳥の翼の形や、翼の使い方などを観察してみよう。

【主に昼に渡る鳥のリスト】

タカ類、ヒヨドリ、カラ類、カラス類、ハクセキレイ、スズメ、ニューナイスズメ、ツバメ類、アマツバメ類、オオジュリン、カワラヒワ、ウンなど

昼夜問わず渡る鳥

ハクチョウ類やガンカモ類は昼も夜も渡りを行うが、夜が明けてから渡り始める個体が多数派。オオソリハシギなどの一部のシギ・チドリ類は、何日もノンストップで飛び続けることが知られる。



オオハクチョウ



オオソリハシギ

シギ・チドリ類は羽ばたきながら飛ぶが、翼の先が尖っており、長距離を飛ぶのに適している。

【昼も夜も渡る鳥のリスト】

ハクチョウ類、ガン・カモ類、サギ類、キツツキ類

EPSON

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。

北海道から九州まで各地のヒヨドリが移動しているようです。

渡り途中のヒヨドリの特徴

ところで、渡りをしないヒヨドリと、どこから渡ってきたヒヨドリを見分けることはできるのでしょうか。実のところ、これはかなりの難題ですが、渡っている最中のヒヨドリの群れが立ち寄っただけという場合は見分けられるかもしれません。渡りをしないヒヨドリは縄張りを持っており、縄張り内の食事場に別のヒヨドリが現れると執拗に追い払うのですが、渡ってきたヒヨドリは縄張りを防衛する意欲が低く、複数でにぎやかに過ごしている傾向がありそうです。また、渡ってきたヒヨドリは食物が減るとすぐにいなくなってしまう。ぜひ近所のヒヨドリを観察してみてください。